

2020年度 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価報告書

学校法人大橋学園 名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、2021年3月18日に「2019年度 学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

2021年3月19日作成

学校法人 大橋学園

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

1. 平澤 琢二 (名古屋市中村区歯科医師会 会長)
2. 田中 裕貴 (株式会社さんぽう 企画営業第2グループリーダー) 欠席
3. 谷口 沙耶香 (歯科衛生学科 同窓会会長)
4. 中尾 聡 (学校法人 大橋学園 法人本部本部長)
5. 服部 正巳 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 学校長)
6. 杉本 佳史 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務長)
7. 後藤 香織 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 事務主任)

オブザーバー

- 加藤 直美 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 学科長)
渡邊 美香 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長)
井上 玲子 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校 歯科衛生学科 副学科長)
三宅 孝 (名古屋ユマニテク調理製菓専門学校 事務局)

以上 11名

2. 2020年度 自己評価 (2019年度の学校運営等についての評価)

項目	評価・課題
(1) 教育理念・目標	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：学生は目的をもって学校に来ているが、学校の理念・目的・育成人材像等の内容についてしっかりと認識出来ていない学生・保護者もいる。</p> <p>改善策：今まで以上にホームページやパンフレット、オープンキャンパスなどのイベントで、理念等をしっかり伝えていく。</p>
(2) 学校運営	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：人事・給与に関する規程は構築されているが、定期的な見直し、検討の機会が乏しい。</p> <p>改善策：人事・給与に関する規程は、1年に一度等、定期的な見直しを検討する。</p>
(3) 教育活動	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：業界における変化も著しいため、教育効果の達成はこれでよしということは持つべきでない。</p> <p>改善策：様々な角度から、時代のニーズ(求められているもの)をしっかりと捉えていく思考を教職員が共有していく。</p>
(4) 学修成果	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：初年度教育での退学者が多く出てしまった。</p> <p>改善策：様々な理由での退学となるのだが、早期対応(早めの面談等を実施する等)に努める。</p>
(5) 学生支援	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：卒業後の卒業生とのつながりをどのようにするか、学校側として具体的な方策(同窓会の利用や発信ツールの整備等)を検討する必要がある。</p> <p>保護者へ連絡しても、保護者のノータッチ状態という学生が複数見られ、学校からの生活指導の限界と思うことがあった。もう少し学生一人一人と向き合える時間の確保に努めたい。</p> <p>改善策：同窓会に協力を求めるところもあるが、学校としての発信場所を設け周知していく。保護者会など全体的に、医療系学業についての理解・協力を周知、底上げを図っていく。</p>
(6) 教育環境	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：災害時の対処についての検討はされているが、日ごろからの予防意識を高めるための体制づくりが必要である。</p> <p>改善策：防災委員会を中心に環境の見直し、予防意識を高めるための発信を積極的に行っていく。また、防災訓練と位置付けて、学生証アプリを使用した安否確認を定期的(年3回程度)に行う。</p>
(7) 学生の受け入れ 募集	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：高校の先生の衛生士学校への理解が十分でないかもしれない。</p> <p>改善策：高校訪問等で高校の先生により理解していただくように発信していく。</p>
(8) 財務	<p>評価：ほぼ適切である。</p> <p>課題：教職員の財務状況への理解をより図る。</p> <p>改善策：教職員への情報発信の仕方を検討する。</p>

(9) 法令等の遵守	評価：ほぼ適切である。 課題：個人情報の掲示物の保管方法、自己評価に対する改善。 改善策：個人情報の掲示物の保管方法を厳重にする。改善点の明確化。
(10) 社会貢献・ 地域貢献	評価：ほぼ適切である。 課題：日々が忙しく、なかなかボランティア活動を取り入れ奨励していくまで至っていない。 改善策：出来るところから、ボランティア活動を検討していく。

3. 2019年度 学校関係者評価 (2018年度の自己評価についての評価)

項目	評価
(1) 教育理念・目標 「理念・目的・育成人材像は定められているか」	適切である。
(2) 学校運営 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」	ほぼ適切である。
(3) 教育活動 「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」	適切である。
(4) 学修成果 「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」	ほぼ適切である。
(5) 学生支援 「学生相談に関する支援体制は整備されているか」	適切である。
(6) 教育環境 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」	適切である。
(7) 学生の受け入れ募集 「学生募集活動は適正に行われているか」	適切である。
(8) 財務 「財務について会計監査が適正に行われているか」	適切である。
(9) 法令等の遵守 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」	適切である。
(10) 社会貢献・地域貢献 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」	ほぼ適切である。

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての全体的な評価・意見等	<p>大項目で「適切」といった場合においても、小項目でひとつでも不適切であった項目に対しては、今後、課題を解決しつつ改善に努めるとともに、内部での情報発信力を少し強めるだけでも「適切」に転じる余地もあるため、これまで以上に教職員への情報発信を徹底していただきたい。</p> <p>また、同窓会や業界団体との連携を強化することで、学生のモチベーション維持、ひいては卒業生の離職防止まで結びつく可能性も高いため、今後もさらに強化していただきたい。</p>